

外国人観光客の動態 ～モバイル空間統計調査報告～



ので、このまま2019年度も大幅な増加が期待されていましたが、最も入込数の多い韓国からの観光客が、徴用工問題をきっかけに2019年8月から減少し、加えて2020年2月の新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響が表れ始めたことから、前年度より14%、数にして19万人減少しました。

その後、2020年4月から2022年10月までの2年半に渡り、新型コロナウイルス感染拡大の水際対策として、訪日外国人の入国制限が行われ、小樽市内においてもほとんど外国人観光客は訪れていません。

表2は、小樽市産業港湾部が公表している外国人観光客の市内の宿泊者数を示しています。

2017年度から2019年度までの3カ年を見ると、外国人観光客数の15%から20%位が小樽市内で宿泊しています。2020年度と2021年度のコロナ禍においても、宿泊者数が記録されていますので、宿泊率が過去同様とすると、この間も年間数千人の外国人観光客が小樽を訪れていたことが推計されます。

表2 外国人宿泊者数 ()は外国人入込数に占める宿泊率 (単位:人)

年度	上半期 4月～9月	下半期 10月～3月
2017	81,760 (16.2%)	123,827 (17.4%)
2018	90,636 (15.6%)	141,917 (18.8%)
2019	92,673 (15.2%)	108,157 (20.4%)
2020	465	393
2021	448	777
2022	1,195	69,237 (22.8%)

宿泊者数は小樽市産業港湾部公表資料より作成
宿泊率はモバイル空間統計の調査結果から算出

■2022年度下半期
国の水際対策が緩和された2022年10月から2023年3月までの6カ月間では、小樽を訪れた外国人観光客の数が、30万3300人だったことがわかりました。
(表3)

表3 外国人観光客入込数 (下半期10月～3月) (単位:人)

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2017	90,842	85,154	136,065	143,479	160,738	96,539	712,817
2018	75,162	80,977	160,511	169,082	169,248	98,590	753,570
2019	72,743	80,883	149,527	153,389	72,741	2,092	531,375
2020	2,000 (宿泊者数からの推計値)						2,000
2021	4,000 (宿泊者数からの推計値)						4,000
2022	3,176	16,360	70,254	76,152	86,440	50,918	303,300

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、約3年に渡り、人々の移動が大幅に制限され、世界の観光産業は大きな影響を受けました。

小樽市内においても、外国人観光客の姿をほとんど見ることはありませんでした。ところが、昨今ようやく目に留まるようになりました。観光庁の発表によると、2023年7月の訪日外国人観光客は、23万6000人とコロナ前の2019年同月比の77.6%まで回復しています。

当所ではコロナ前の2017年度から2019年度の3カ年にわたりモバイル空間統計(※5ページ参照)という手法で、小樽を訪問した外国人観光客入込数を調べました。コロナ禍は調査していませんが、国が水際対策の緩和を行った昨年10月から今年3月までの半年間の外国人観光客の入込数について改めて調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

小樽の外国人観光客

コロナ前3カ年度の調査では、小樽の外国人観光客は、表1のとおり、いずれも百万人を超える人

数が訪れており、観光客全体に占める割合も15%を超え、外国人観光客は小樽観光を支える大きな要素となっていました。

表1 外国人観光客入込数 (単位:人)

年度	上半期 4月～9月	下半期 10月～3月	計	観光客全体に 占める割合
2017	504,005	712,817	1,216,822	15.1%
2018	579,293	753,570	1,332,863	17.1%
2019	611,243	531,375	1,142,618	16.3%

2017年度から2018年度にかけて外国人観光客入込数は約10%のペースで増加していました

2022年10月から徐々に入込数が増え、コロナ前の2018年度下半期75万3570人と比較すると、40.2%まで回復したことがわかります。

ただし、観光庁の2023年7月の訪日外国人観光客数はコロナ前の77.6%まで回復していますので、現在、小樽市内においても同様の数値で回復していると考えられます。

観光客の国や地域

表4は、小樽市を訪れた外国人観光客入込数のうち上位10カ国・地域の構成比を表しています。コロナ前の2017年度から韓国が最も多く来樽していることがわかります(2019年度は、中国が逆転)。

続いて、中国、台湾、香港と東アジア圏の国や地域が常に上位に位置しており、東アジア圏だけで外国人観光客の約8割を占めています。中でも中国人観光客は年々客数を伸ばしていました。

2022年度は中国政府が日本への旅行を制限していたことから、上位に中国はありません。

なお、2019年に日本を訪れた中国人の総数は959万人で、